「南北朝・菊池一族歴史街道」　～各自治体紹介連載シリーズ～

R5 年度　第２弾（R5.8.1 掲載）

【大刀洗町】

「大刀洗」この特徴的な町名の由来は、南北朝時代の 1359 年、肥後の豪族・菊池武光率いる南朝方と筑前大宰府を本拠とする小弐頼尚率いる北朝方が、現在の小郡市大保付近で激突した「大保原合戦」に勝利した菊池武光が、激戦で血の染まった太刀を川で洗った、という故事に由来しています。

■菊池武光の銅像

大刀洗川のほとりに広がる大刀洗公園には、菊池武光が太刀を洗った場所とされる菊池渡と、昭和 12 年に建てられた菊池武光の銅像があります。この像をよくみると、あちこちに傷や穴があるのがわかります。これは第二次世界大戦中の昭和 20 年 3 月大刀洗飛行場空襲によりできたものです。

■菊池武敏と大刀洗

武光の台頭する前の延元元年（1336）、多々良浜の戦いで足利尊氏に敗れた肥後の菊池武敏は、本郷の三原種朝に護られて「三原城」に逃げ込みました。ここで10日あまり籠城して戦いましたが、とうてい足利方の仁木義長の攻撃を防ぐことはできませんでした。暗闇に紛れて八女の黒木城に走りましたが、ここでも防ぎきれず惨々の態で居城隈府に逃れかえりました。

「三原城」

三原城は石垣を高く積んで、天守閣をもつような城ではなく、屋敷を堀でかこんだ館です。今でも堀の跡がよく残っています。天正14年（1586）に当主三原紹心が太宰府の四王寺山の岩屋城で鹿児島の島津軍との戦いで討ち死にし、城としての役目は終えました。平地にある城（館）で堀がはっきり残っているのは福岡県内では三原城だけで、大変めずらしい遺跡です。平安時代より栄えた三原家代々の居城・三原城があった本郷地区は、現在も昔ながらの街並みがたくさん残っています。白壁造りの家や寺社仏閣、醤油の蔵元、酒造など歴史情緒あふれる街並みが広がります。

三原城石碑